

1 研究の概要

《学校教育目標》

ふるさとに誇りと愛着を持ち、心豊かにたくましく生きる彼杵っ子

《研究主題》

進んで学び、かかわることで、自分の考えを広げ、深める児童を目指して
～児童が「見方・考え方」「読解力」を働かせ、追究する学習指導を通して～

(1) 主題設定の理由

昨年度は、「読解力」の向上を継続的に日々の授業に取り入れていくことに加え、学習指導要領が提唱する「主体的・対話的で深い学び」を授業レベルで具現化していくこと、児童が教科ごとの「見方・考え方」を発揮できる学びを教師自らが意識して取り組むことで、数値的な成果も期待できるのではないかと考え、「国語科」「算数科」の2つの教科で研究を行ってきた。数値的な大きな成果は得られなかったが、児童が自ら学習に取り組み、課題の解決に向かって、友達と対話したり、協力したりして、学びを広げたり、深めたりする場面が、多く見られるようになった。また、課題の一つであった語彙力の向上を目指して、漢字検定にも取り組んだ。漢字の読み書きだけではなく、部首や熟語、同意語、対義語など様々な側面からとらえ、学びを広げたり、深めたりすることができた。

今年度は、昨年度の成果としてみられた児童が主体的に学習に取り組む学びの姿を広げ、学習の楽しさ、学びの成果の実感によって、児童が、さらに主体的に学習に取り組むことで、学力テストの数値的な成果を期待するとともに、研究実践を充実したものにしていきたい。そのために、教科を「国語科」や「算数科」に絞らず、学年や学級の実態と教科の特性をいかした研究授業の実践を行っていきたい。

(2) 研究主題について

○ 「進んで学ぶ」…主体的な

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び。

○ 「かかわる」…対話的な学び

- ・ 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通して、自己の考えを広げ深める学び
- ・ 学び合い、伝え合い

- ・ 自己との対話を重ねつつ、他者と相互にかかわりながら、自分の考えや集団の考えを発展させていくこと

○ 「広げ、深める」…深い学び

- ・ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」や「読解力」を働かせながら知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。

2 めざす児童像

学習に主体的に参加し、各教科の「見方・考え方」や「読解力」を働かせながら自分の考えを広げ、深める子

- ・学習に主体的に参加する児童
- ・他とかかわることで自分の考えや学びを表現する児童
- ・各教科の「見方・考え方」「読解力」を働かせながら追及し、自分の考えを広げたり、深めたりする児童

3 研究仮説

- ① 児童が自ら学習に手を伸ばす手立て（学習問題、教材、学びの場等）の充実
- ② 話す視点（何を話すか）、聞く視点（何に気をつけて聞くか）を明確にした「学び合い」「伝え合い」の充実
- ③ 各教科の「見方・考え方」や「読解力」を働かせながら、生きて働く知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を育成する指導の充実
- ④ 振り返りの充実（学習内容の定着、自己の成長への気づき、他者からの学びの実感、次の学習へつなげる）



学習に主体的に参加し、各教科の「見方・考え方」「読解力」を働かせながら自分の考えを広げ、深める子ども

4 研究の方法・内容

（1）授業研究

町が提唱する5つの授業の視点

- 1 「わかったことやできたこと」をたしかめる授業
- 2 「めあて」の答えが「まとめ」になる授業
- 3 お互いの考えを伝え合う授業
- 4 読解力育成を意識した授業
- 5 授業後、板書を画像に残す「板書の見える化」

- ① 各学年、学級で研究主題にせまるための教科を選定する。単元や1単位時間の授業に必要な「見方・考え方」「読解力」をはっきりさせて、授業作りの視点に加え、授業実践を行う。
- ② 「めあて」をくふうしたり、「めあて」と「まとめ」の整合性を高めたりすることで、児童の「できた、わかった」につながる授業作りを行う。また、「めあて」と「まとめ」が、“子どものものになっているか”という視点も重視したい。
- ③ 「教材提示」を工夫する。（文カードや図、画像を用いて、視覚化するなど）
- ④ 「書く」活動を取り入れ、思考・判断・表現力及び書く力の向上をめざす。（自分なりの考えをもつ、学習をまとめる、学習を振り返る。自分の言葉で）
- ⑤ 「学びの場」を工夫する。（自力解決、協同解決、意図：比較、関連、総合、新たな考えを生み出す場、まとめる場、異なる考えから見つめ、見直す場など）
- ⑥ 授業をパターン化し、児童が見通しをもって授業に参加できるようにする。

（教材提示→課題発見→「めあて」の設定→個人学習→ペア（グループ）学習→全体での練り合い→「まとめ」→振り返り・次時の見通し）

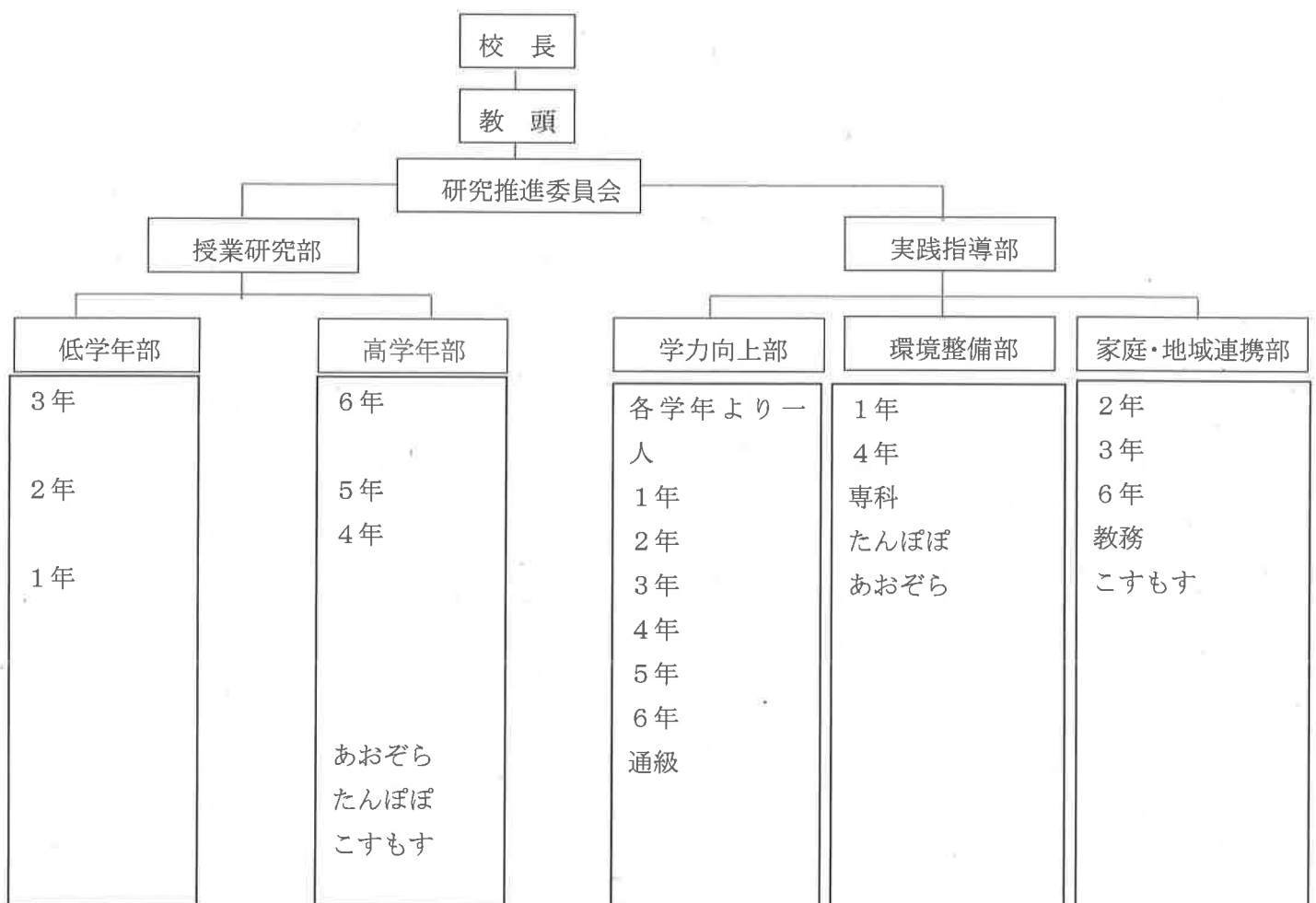
（2）学力向上の取組（学びの土台作り）

① スキルタイムの充実

- ・個別指導の充実、漢字検定への取組、算数・国語の学力向上、授業の補完など

- ② 学力向上プランの作成（学力テストの分析による課題をもとにして）
- (3) 漢字検定・新聞に親しむ環境づくり
 - ① 漢字検定への取組（家庭学習、模擬テストなど）
 - ② 児童がより新聞にふれられる環境の整備
- (4) 学習に向かわせる環境の整備、家庭への啓発
 - ① 学習規律の徹底
 - ② 学びの習慣化、学びを支える生活習慣の充実（家庭への啓発等）
- (5) 読書の奨励
 - ① 年間 100 冊、読書内容の充実（学年や児童の実態に合った読書、調べるなど目的に合った読書）
- (6) ICT の活用
 - ① 授業での活用（考えの交流、自分の考えの表現など）
 - ② タブレットの家庭学習への利用

5 研究組織



※「授業研究部」「実践指導部」いずれにもそれぞれ一つずつ所属する。

※「授業研究部」「実践指導部」いずれにもそれぞれ一つずつ所属する。

研究推進委員会		○研究推進に関する企画・運営 ○各学年の研究実践のための連絡調整 ○全体計画の協議・決定
授業研究部		○授業における読解力を高める手だての工夫・実践 ○めあて、教材提示の工夫・実践 ○見方・考え方を働かせるための手立て ○指示や発問の工夫・実践
実践指導部	家庭・地域連携部	○家庭への啓発・情報開示 ○学習習慣の形成（家庭学習の手引きなど） ○生活習慣チェックカードによる家庭への啓発・習慣化
	環境整備部	○学習環境の整備（学習コーナーの設定：玄関） ○ICT 活用の環境整備、研修。推進 ○子ども新聞など新聞を読む環境づくり
	学力向上部	○学向上プランの作成・活用 ○学習規律・板書・ノートの取り方 ○スキルタイムの内容の検討・実践 ○漢字検定の取組